
演題名 都道府県別放射線治療の実施率とその要因に関する検討

演者氏名 福田智也

所属先 大阪大学大学院医学系研究科放射線治療生物学

・筆頭著者・共著者

玉利慶介²

高橋豊¹

小川和彦²

・所属施設

1 大阪大学大学院医学系研究科放射線治療生物学

2 大阪大学大学院医学系研究科放射線治療学

[目的]

日本におけるがん患者への放射線治療(RT)実施率は、2010 年の報告により都道府県間で最大約 2 倍の開きがあることが指摘されている。しかし、その後この格差が縮小しているかは十分に検証されていない。本研究では、現時点での都道府県別 RT 実施率の差異と、RT 実施率に関連する要因について解析することを目的とした。

[方法]

NDB オープンデータ、JASTRO 構造調査、全国がん登録、国勢調査の各データを用いて、X 線を用いた放射線治療（体外照射、定位照射、単回緩和照射）の都道府県別 RT 実施率を算出した。さらに、2020 年度の RT 実施率と、人口 10 万人あたりの放射線治療専任放射線科医師 (FTE) 数 (放射線治療医数) および放射線治療専任放射線技師 (FTE) 数 (放射線治療技師数) との関係を JMP ソフトを用いたピアソン相関分析により評価した。

[結果]

2020 年度の全国平均 RT 実施率は 29.3%であり、最も高値を示した静岡県が 38.5%、最も低値であった佐賀県が 16.5%と、2 倍以上の差が確認された。人口 10 万人あたりの放射線治療医数は最多が 1.65 人 (福井県)、最少が 0.44 人 (佐賀県)、放射線治療技師数は最多が 3.03 人 (群馬県)、最少が 1.12 人 (鹿児島県)であった。RT 実施率は、放射線治療医数 (相関係数 0.25, $p<0.05$) および放射線治療技師数 (相関係数 0.34, $p<0.05$) と有意な相関を示した。

[結語]

都道府県ごとの RT 実施率には差異が存在し、その要因として人口あたりの放射線治療医数や放射線治療技師数に関連している可能性が示唆された。